

第5学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『水産業のさかんな地域』

(教科書：『小学社会5上』 p.74～87／学習指導要領：内容（2）ア、イ、ウ）

2. 小単元の目標

- 水産業がさかんな地域について調べ、その地域の自然条件や、水産業に携わる人々の工夫や願いを捉えさせる。
- 水産業が加工や運輸などの仕事と密接にかかわっていることや、費用との関係、水産資源や自然環境を守りながら漁業を進めていることに気づかせ、これからの水産業のありかたを考えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
自分たちが食べている水産物の産地や日本の水産業について関心をもって意欲的に調べ、自分たちの食生活を支えている水産業が今後どのようなようになっていくとよいのかを考えようとしている。	水産業に携わる人々の仕事の工夫や願い、安定して水産資源を確保していくために必要なことなどについて、資料や調べたことをもとに考え、適切に表現している。	水産業に関する資料や地図、統計などの資料を目的に合わせて収集・選択し、的確に読み取っている。	日本の水産業がさかんな地域の様子や、水産業に携わる人々の仕事の工夫、日本の水産業の現状や安定的に漁業を進めていく養殖業や栽培漁業の取り組みについて理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本校は海の近くにあるが、水産業に従事している家庭はなく、今回取り上げる水産業は、身近なものとはいえない。そこで、児童にとって身近に関心が高いであろう「寿司のネタ」を切り口に導入で児童の関心を高めたい。そして、寿司のネタが寿司屋に来る前は、どんな人がどんなふうに関わっていたのかを問う。児童は、魚が漁師の手によってとらえられ、店まで運ばれてくることは知っているだろう。しかし、気候や地形などの自然環境や交通などの社会的条件を生かして生産を高めたり、消費者の需要に応じて安心・安全な水産物を届けるための工夫や努力を行ったりしていることはわからないだろう。そこで、学習問題を「水産業にかかわっている人々は、わたしたちがおいしく魚を食べるためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。」と設定する。児童の予想をもとに学習計画を立て、主体的に学習を進めていけるようにしていきたい。

(2) 教材について

水産業は、食料資源の確保や自然環境とのかかわりなどの観点から、様々な問題を抱えている。例えば、200海里規制による漁場の制限や、とりすぎによる水産資源の減少などがある。日本にお

ける水産物の消費量・輸入量はともに世界一となっており、その動向は世界に大きな影響を与えている。こうした海外からの輸入等の問題を通して、子どもたちは日本全体、あるいは世界とのかかわりからみた食糧という点にまで目を向けていくことができる。

こうした様々な問題を抱える中、環境や資源の保護を考えた「守り育てる漁業」が行われるようになってきている。人々が食料を安心して食べられるように、色々な取り組みが行われていることについても学んでいけると考える。

学習を通して、食料を確保し、新鮮なまま、安心・安全な状態で消費者に届けるために、様々な人が努力していることに気づかせたい。また、魚の新鮮さを保ちながら消費者に届ける工夫や、資源を守り育てる取り組みをしている人々について学んでいく中で、普段、食卓にのぼる魚を目にしたときに、それにかかわる人のことを思い浮かべるようになってほしい。

(3) 指導上の工夫・留意点

海から食卓まで、魚の生産・流通にかかわっている人の工夫や努力、願いに迫っていくという、ストーリー性のある展開で学習を行う。そうすることで、追究意欲を高め、学習意欲の持続につながる考えた。また、本小単元の導入で、単元を貫く学習問題を「水産業にかかわっている人々は、わたしたちがおいしく魚を食べるためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。」と設定する。本小単元で扱う人々は、漁師、魚市場で働く人々、輸送する人々などである。そして、毎時間の終末に、水産業にかかわっている人々がどのような工夫や努力をしているかを振り返らせる。そうすることで、水産業にかかわる人々が「新鮮な魚を届けたい」といった共通の願いのもと、工夫や努力を行っていることに気づくことができる考えた。

5 小単元の指導計画（総時数9時間）

時	ねらい	○学習活動 ・ 内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① ② (つかむ)	自分たちの食べている水産物の名前や産地を調べ、日本の水産業について興味や関心をもち、調べようとする意欲をもつことができるようにする。	○寿司のネタを提示し、ネタになっている魚を当てるクイズを行う。 ○寿司のネタとなる魚がよくとれる漁港を調べ、日本の主な漁港を調べる。 ・ 太平洋側に集中している。 ・ 海流の境目に多い。 ○海から食卓に届くまでに、魚に携わっている人々には、どんな人がいるかを予想する。 ・ 漁師 ・ 輸送する人 など ○学習問題を設定する。	◎寿司ネタと魚の写真 ◎日本の主な漁港 ◆自分の食べている水産物が、どこでどのようにしてとられているのか、関心をもって調べようとしている。 (関・意・態／活動・発言) ◆水産業にかかわる人々の工夫や努力について調べる学習問題を考え、表現している。 (思・判・表／発言・ノート)
		水産業にかかわっている人々は、わたしたちがおいしく魚を食べるためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。	

③ (調べる)	サンマ漁師の工夫や努力について、写真や映像を見たり、話し合ったりする活動を通して、水あげを効率よくしたり、鮮度を保ったりするために工夫や努力をしていることがわかるようにする。	○サンマ漁の様子を調べる。 ・ソナーで魚の群れを発見する。 ・光でサンマを誘導する。 ・棒受け網で一網打尽にする。 ・フィッシュポンプで一気に吸い上げる。 ・紫外線で殺菌された海水や氷につけることで、鮮度を保っている。 ○サンマ漁師の工夫や努力を考える。	◎サンマ漁の映像資料 ◆サンマ漁の工夫や鮮度を保ったまま運ぶための工夫について調べたことを表現している。 (思・判・表／発言・ノート) ◆サンマの水あげを効率よく行う工夫や、紫外線で鮮度を保つ工夫があることを理解している。 (知・理／ノート)
④ (調べる)【本時】	せり場にサンマを置いていない理由を、資料から読み取ったり、話し合ったりする活動を通して考え、魚市場の人たちが鮮度を落とさないように工夫や努力をしていることを説明できるようにする。	○サンマがせり場がない理由を考える。 ・サンマの水あげ量が多いから。 ・サンマの大きさが小さいから。 ・サンマの水あげ量が多く、並べるのに時間がかかるから。 ・サンマの鮮度を落とさないように別の場所に置いてあるから。 ○魚市場の人たちの工夫や努力について考える。 ・サンマの鮮度を落とさないために工夫している。	◎マグロ、ブリ、サンマのせりの様子を撮影した写真 ◎マグロ、ブリ、サンマの一日の水あげ量 ◎サンマの実物 ◎マグロ、ブリ、サンマのK値の変化 ◎市場で働く人の話 ◆せり場にサンマがない理由を根拠に、鮮度を落とさないための工夫や努力があることを説明している。 (思・判・表／ノート)
⑤ (調べる)	サンマをとる時期や、漁港の仕事の中でかかる費用と、サンマの値段との関係を理解できるようにする。	○時期によるサンマの値段の違いと、その理由を考える。 ○漁師や魚市場など、漁港で働く人々の仕事の様子を知り、値段と結びつけて考える。	◎サンマをとるまでにかかる費用 ◆サンマの水あげ量や、漁港で働く人々の仕事の様子と、値段とを結びつけて考えている。 (思・判・表／発言・ノート) ◆漁港で働く人々の仕事の様子がわかる。 (知・理／ノート)

⑥ (調べる)	サンマが港から自分たちのもとへ届くまでの様子を調べ、産地と消費地を結ぶ流通・輸送の働きについてとらえることができるようにする。	○水あげされてから消費地に届くまでのタイムスケジュールを調べる。 ○消費地に届くまでの様々な輸送方法を資料から読み取り、それぞれのよさを調べる。 ・飛行機 ・船 ・トラック など	◎水あげされてから消費地に届くまでのタイムスケジュール表 ◎日本の交通網の様子（地図） ◆サンマが消費地に届くまでに様々な仕事や輸送方法があり、それぞれの輸送手段の利点を生かして水産物が運ばれていることを読み取っている。 (技／活動、ノート)
⑦ (調べる)	水産業に携わる人々の悩みや願いについて考えることができるようにする。	○北方領土と漁業との関係、200海里水域、漁業で働く人々の数の変化、漁業別生産量の変化について調べる。 ○日本の水産業が抱える課題から、漁師の悩みや願いを考える。	◎漁業別生産量の変化（グラフ） ◎漁業で働く人数の変化（グラフ） ◆漁師の話や水産業が抱える課題について調べたことをもとに、漁師の悩みや願いを考え、表現している。 (思・判・表／発言・ノート)
⑧ (調べる)	養殖業について調べ、育てる漁業に励む人々の工夫や努力について理解できるようにする。	○養殖業が行われている地域の自然環境を調べる。 ○写真資料や養殖業を営む人の話から、養殖業の様子を捉え、その工夫や努力について考える。	◎養殖業が行われている地域の地形図 ◆育てる漁業の仕事の様子、工夫や努力がわかる。 (知・理／ノート)
⑨ (深める・まとめる)	今まで学習したことを生かして、水産業にかかわる人々の工夫や努力についてまとめ、人々の願いを考えることができるようにする。	○水産業にかかわる人々の工夫や努力を振り返り、共通点を考える。 ○学習問題「水産業にかかわっている人々は、わたしたちがおいしく魚を食べるためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。」をテーマに学習作文を書く。	◆水産業にかかわっている人々の工夫や努力から共通点を考え、学習作文に表している。 (思・判・表／学習作文)

6. 本時の指導（第4時）

（1）本時のねらい

せり場にサンマを置いていない理由を、資料から読み取ったり、話し合ったりする活動を通して考え、魚市場の人たちが鮮度を落とさないように工夫や努力をしていることを説明できるようにする。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T: 発問 C: 児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
10	○様々な魚のせりの様子を見て、サンマのせりが他と違う点や疑問点をあげる。 T: 今日、水あげされた魚のその後を学習します。いろいろな魚のせりを見てみましょう。(マグロの実物大イラストを提示して) この魚は何ですか。 C: マグロだ! 大きいね、ぼくの3人分ぐらいかな。 T: マグロのせりの様子を見てみましょう。 C: たくさん人がいる。 C: マグロがたくさん置いてあるね。 T: ここに立っている人は、何を話しているのでしょうか。 C: 魚がいいか悪いかを話し合っている。 C: 魚を買おうかどうか話し合っている。 C: どれくらいの値段にしようか話し合っている。 C: 魚をチェックして値段を決めるところだね。 C: 魚もたくさんあるね。 T: 次は刺身にするとおいしい、ブリのせりです。 C: おいしそうな魚がたくさん並んでいるね。 T: それでは、サンマのせりを見てみましょう。 C: おかしいよ。さっきと様子が違うよ。 C: サンマのせりは、サンマが並んでいない。 C: マグロやブリは、魚が並んであったよ。 T: なにか不思議なことはありませんか。 C: マグロやブリは、せりの時に並んであるのに、どうしてサンマはせりの時にないのかな。 【学習課題】 魚市場の人は、マグロやブリのせりには魚を置いているのに、なぜサンマのせりには魚を置いていないのだろうか。	◎マグロ、ブリ、サンマの実物、あるいは実物大のイラスト ◎マグロ、ブリ、サンマのせりの様子を撮影した写真 ◇マグロ→ブリ→サンマと、順番にせりの様子を提示していく。 ◇それぞれの魚について、実物の大きさを示したり、主な水あげ港を答えさせたりして、学習意欲を高めていく。 ◇写真に写っている人が何を話し合っているのかを考えさせることで、せりの役割を確認する。 ◇可能であれば、サンマは氷水につけた実物を見せる。 ◇児童のつぶやきを取り上げ、不思議だと思っていることを具体的な言葉で表現させる。 ◇「なにか不思議なことはないだろうか」と問い、本時の学習課題につながる発言を引き出す。
17	○せり場にサンマを置いていない理由について、これまでの学習をもとに予想する。 T: 課題に対する自分の予想を書きましょう。 C: サンマは他の魚に比べて、たくさんとれるから、置く場所がないのかも。 C: それは、前にDVDで見たね。量が多いのは間違いなさそうだよ。 C: 他の魚と比べると、サンマは小さいのかもしれない	◇サンマがマグロやブリと何が違うのかがわかれば、課題の解決につながることを確認し、予想の方向づけを行う。

	C：他の魚に比べるとサンマは鮮度が落ちやすいんだね。 ということは、時間をかけて並べていると、鮮度が落ちてしまうね。	して、魚種別の「水あげから刺し身で食べられなくなるまでの時間」や「K値（鮮度を示す数値）」の変化」を提示するのもよい。
5	○市場で働く人の話を読んで、せり場にサンマを置いていない理由を確かめる。 T：本当はどんな理由なのでしょう。確かめたいですね。実は、根室市の花咲漁港の市場で働いている方からお話をうかがいました。見たいですか。 C：見たい、見たい。 【花咲水産物地方卸売市場で働く人の話】 運ばれてくるサンマは、多いときで2000トン、約1000万匹です。サンマは一度にたくさんとれるので、すぐに鮮度を落とさないように、殺菌された冷たい海水や氷の入った大きなタンクに入れます。 サンマは、鮮度が落ちやすい魚です。だから、サンマをタンクに入れたままにします。そして、お店の人が下見に来ます。その後、お店の人たちは、せり場に移動してせりを始めるのです。 せりを行う場所にサンマを置かないことで、せりの間にサンマを運ぶ準備をすることができます。そして、せりが終わったら、すぐに全国に向けて運ばれます。これも鮮度を落とさないための工夫ですね。 T：市場の方の話からどんなことがわかりましたか。 C：サンマは、水あげされる量が多いので、氷水に入れた状態で値段を決めるための下見を行います。 C：サンマは、傷みやすい魚なので、氷の入ったタンクの中に入れておく必要があります、せりの場所とはちがう場所にあることがわかりました。 C：せりの間に運ぶ準備を行うことで、せりが終わるとすぐに運ぶことができることがわかりました。	◎市場で働く人の話（文章資料） ◇自分たちの立てた予想・仮説が正しいかどうかを確かめたい、という気持ちを高める。 ◇検証資料（市場で働く人の話）から、学習課題についてわかったことを問う。
3	○せり場にサンマを置いていない理由についてまとめる。 T：なぜ、魚市場の人はサンマのせりに魚を置かないのでしょうか。わかったことを書きましょう。 C：サンマは傷みやすいので、鮮度を保つために氷の入ったタンクに入れておく必要があるからです。 C：せりの間、サンマを運ぶ準備をしておくことで、せり	◇検証資料（市場で働く人の話）をもとに、まとめさせる。 ◇まとめを書いたら、学級全体で発表し合う。

	が終わったら新鮮な状態ですぐに運べるからです。 【まとめ】 魚市場の人がせりにサンマを置かないのは、氷水に入れておき、せりが終わったらすぐに運ぶなどして、サンマの鮮度を落とさないためである。	
10	○学習のまとめをする。 T：今日の課題の「水産業にかかわっている人々は、わたしたちがおいしく魚を食べるためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。」について、わかったことを作文にまとめましょう。 C：今日は、魚市場の人が、マグロやブリのせりには魚を置いているのに、なぜサンマのせりには魚を置いていないのかについて考えました。予想では、サンマが小さいので品質をチェックするのが大変だからだと考えていました。学習して、サンマはいたみやすいから、氷が入ったタンクの中に入れておく必要があるからだとわかりました。つまり、魚市場の人々がせりにサンマを置かないのは、鮮度を落とさない工夫や努力をしていると言えます。	◇「今日は」「予想では」「学習して」「つまり」で始まる4文で、学習作文を書かせる。 ◆せり場にサンマがない理由を根拠に、鮮度を落とさないための工夫や努力があることを説明している。 (思・判・表／ノート)